

御代田小学校だより

平成 25 年 1 月 18 日



みよた

みんなと仲よくする子ども
よく考え、ともに学ぶ子ども
たくましい子ども

<http://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0710038> 文責 齋藤 和代

(ホームページからも「御代田小学校だより」がご覧いただけます。)

本県の子ども肥満傾向

保健だより「のびのび」でもお知らせした通り、昨年末の新聞等で、肥満傾向にある福島県内の子ども割合が、各年齢で全国平均を上回ったことが（16歳女子を除く）大きく報道されました。その原因として原子力災害に伴い屋外活動が制限されたためではないかと報じられました。

本校の場合はどうでしょうか。「のびのび」でお知らせした通り、本校でも肥満傾向にある子どもの割合は、県内と同じ傾向にあります。しかし、本校では屋外活動制限はしておらず、子どもたちは線量がとても低い校庭で存分に走ったり遊んだりしています。そのため、これも2学期の学校だよりでお伝えした通り、本校児童の運動能力は、全国平均を上回っています。

となると、本校の場合原因は違うところにあるのではないのでしょうか。そして、なぜこの肥満傾向が問題なのでしょう。

沖縄26ショック（沖縄クライシス）という言葉があります。長寿県といえば、すぐに沖縄が思い浮かびますが（1989年まで全国1位）、男子が1990年に5位に転落すると2000年には一気に26位まで落ちてしまったことを指す言葉です。

この原因について沖縄県は、働き盛り世代の心臓病などの死亡率の上昇を挙げています。これに合わせるように、2005年度の調査では、6～14歳までの肥満傾向の割合が、親の世代に当たる1965年度に比べ、すべての年齢で上回ったそうです。

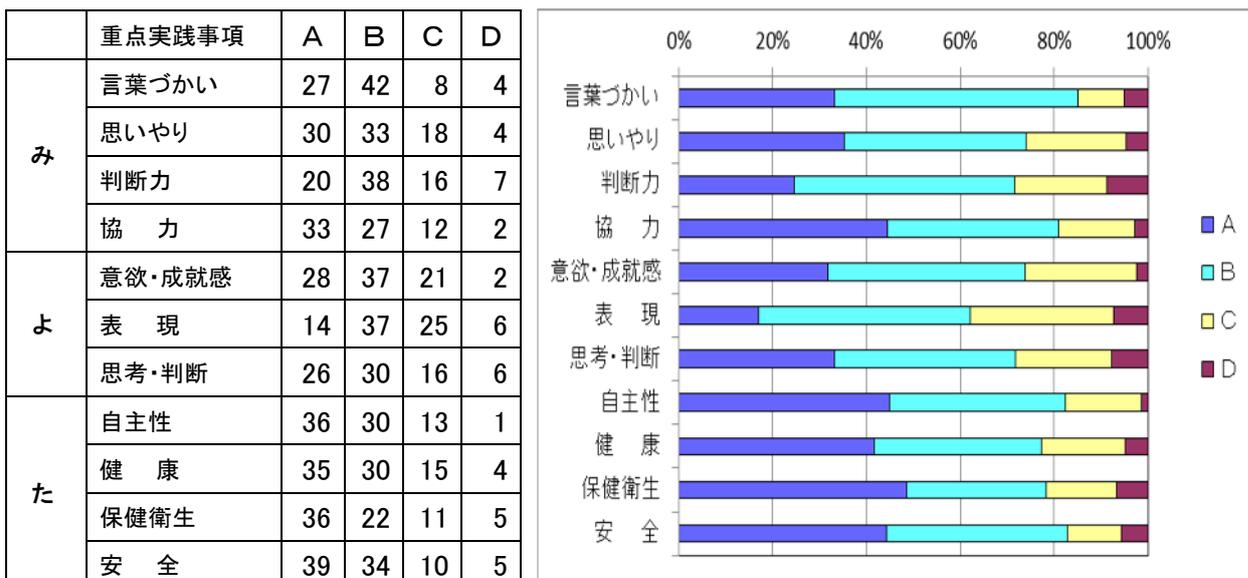
沖縄の長寿者の研究者は「古来からの食生活から、ハンバーガーやステーキなどのファーストフード文化が持ち込まれ、県民の食生活が変化した」ことを問題視しています。

沖縄で肥満が多い原因は、食生活のかたより（過食、脂肪摂取過剰、野菜不足等）や車社会で歩かない、ストレス、などが考えられています。

これらの食生活の変化は、沖縄だけの傾向ではありません。つまり、「沖縄26ショック」は、国全体、特に福島県、さらに本校にも突きつけられた課題でもあります。

子どもにとってファーストフード店やコンビニは夢のある場所に映ります。しかし、毎日のように通うことはどうでしょうか。車で移動するのはとても楽です。しかし、大事な歩く習慣が育ちません。子どもたちが喜ぶからといっても、それは人生を明るくすることにはなりません。やはり、「まごわやさしい」の食事や基本的な生活を大事にしていきたいと思えます。

学校教育目標に対する子どもたちの意識は



2学期末に、子どもたちにも学校教育目標について、自分を振り返ってもらいました。Aは「よくできた」Bは「だいたいできた」Cは「あまりできなかった」Dは「できなかった」という4段階で自己評価しました。

全般的には、保健衛生や安全に関する項目での評価が高く、指導が徹底していて、一人一人も気を付けている様子うかがわれます。自主性についても、係の仕事を進んで行うなど、しっかりできているようです。

逆に、自分の考えをまとめたり伝えたりすることや学習に対する意欲や成就感の自己評価が低かったことが気になるところです。これは、学年が上がるにつれてますますその傾向があるようです。

今後は、子どもたちに意欲や自信を持って学習に取り組むことができるような環境づくりをしていきます。

今週の予定

月 日	曜日	行 事
1月21日	月	児童会各委員会 定着シート実施日 スクールカウンセラーさん来校
22日	火	集会活動
23日	水	お話会（6年） クロイ先生来校
24日	木	
25日	金	甲状腺検査 市小中学校書きぞめ展～27日
26日	土	週休日
27日	日	週休日